

—大雪山のアイヌ語地名④—

今回は北海道の正確な地図を作成するために、明治十七年に、内務省地理局の高橋不二雄と札幌県地理課の福土成豊が、石狩川の水源を極め、水源の山を「石狩岳」とし、帰途にアンタロマ川（現・安足間川）からラフタテシケ（現・旭岳）に登頂し、それぞれ緯度経度を測定し、北海道中央高地の状況を明確にしたことを述べた。

明治二十年、高橋不二雄はその成果を『改正北海道全図』として発刊した。

この地図の概要を『北海道大学附属図書館所蔵、北海道関係地図・図類目録』で見よ。

『改正北海道全図』

（内務省地理局・

東京・博聞社明治二十年・銅版・一三六×一七六cm・縮尺五十分の一。

他方、高倉新一郎は『北海道古地図集成』（昭和六十二年、北海道出版企画センター刊行）で、『改正北海道全図』について、次のように記している。

高橋不二雄は、明治十七年に来道し、石狩川を遡って中央山脈の山々を略測し、転じて釧路川の水源を探り、阿寒山に登り、網走川から常呂川に出、更に西別川水源をきわめ、歴厩川から十勝川上

流に至り、佐幌岳・クマネシリ等を登って東京に帰り、既成の諸図を参考に

して、この地図を作った。

これによって従来調査の不十分だった内陸山岳地帯が明らかになったのである。

前回紹介したように、石狩川上流については、札幌県地理課の福土成豊が同行して協力したよう

に、全道的な協力があって、『改正北海道全図』は、完成したのであった。

当時として

改正北海道全図

は、最も正確で詳細な地図で、明治十九年に北海道庁が設置され、その北海道庁の規範地図とされたのであった。

『改正北海道全図』に

は、地理局長の桜井勉の「序」で、高橋不二雄の「自序」が記載されている。また、千島諸島図、小樽増毛、札幌、余市、石狩、岩内、寿都、江差、福山、函館根室の

各市街図並びに、室蘭、厚岸、浜中の港湾図、また、例

言・三十六に及ぶ符号表が載せてある。

今回は、右から左に書かれた『改正北海道全図』の

名と、『改正北海道全図』の「神居古潭からアンタラマ川（現・安足間川）付

近までの地図を見ていただく。ただ、スペースの関係で、大幅に縮小したために、文字が小さいので、著名な山岳名のみ次に記す。これらの山岳名も、「ケバ（毛羽）」↓地図で、山の形や傾斜を示すのに細くて短い楔形の線で、山名が読みにくくなっていることを付記しておく。

- ①ニセエイカウシペイ山
 - ②東ヨフタテシケ
 - ③チュツペツ山
 - ④ペテツトウシカムイシリ
 - ⑤石狩岳
 - ⑥十勝岳
 - ⑦西ヨフタテシケ
 - ⑧トシラウシ山
- 山岳名で特記すべきことは、「東ヨフタテシケ」と、「西ヨフタテシケ」と、東西の「ヨフタテシケ」が描かれていることである。

アイヌ語地名研究会幹事
※毎月第1週号に掲載します